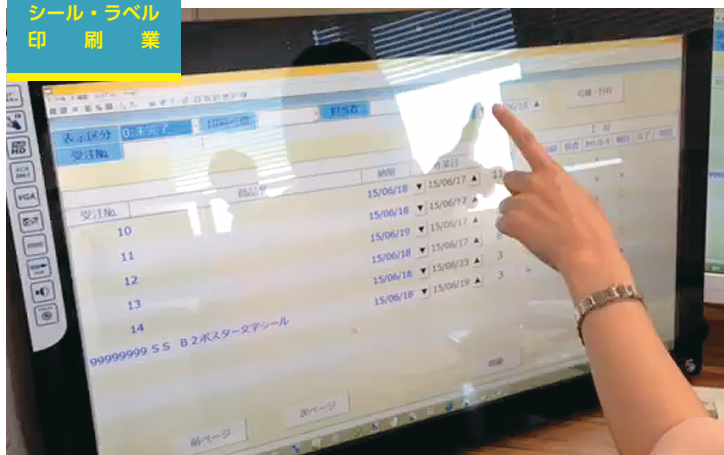


シール・ラベル
印刷業



工程管理システムでの進捗状況確認

クラウドの工程管理システムを導入することで、リアルタイムな工場の見える化を実現し、営業効率の向上や生産現場の効率化により残業時間約20%削減

株式会社ヒロミ産業

- 札幌市西区発寒14条2丁目2-21
- 代表者：代表取締役社長 大和 繁樹
- 設立：昭和54年6月
- 従業員数：29名
- 事業内容：印刷業（シール・ラベル専業）
- U R L：http://www.hiromisangyo.jp/



ビジネス上の「課題」

- ・ 営業・生産の実態を把握したい
- ・ 適正な原価を把握したい
- ・ 残業時間を削減したい

営業・生産現場の実態が見えない

IT導入の「狙い」

- ・ 生産の情報共有で顧客対応迅速化
- ・ 情報の可視化で経営課題の明確化
- ・ 見える化による社内の活性化

社内の見える化・省力化

IT導入の「効果」

- ・ 顧客への即答体制の実現
- ・ 納期遅延減少、繁忙期の調整実現
- ・ 見られる化による意識の変化

顧客対応の改善、業務効率の向上

シール・ラベルの印刷を専門に行う(株)ヒロミ産業は、「デザインから納品まで、トータルでシール・ラベルをプロデュースします」をスローガンに、Challenge「可能性に挑戦する」、Create「独創性を展開する」、Change「自己改革する」の3つの“C”を追求。企画からデザイン・製版・印刷加工まで全工程を社内で一貫生産、食品用・工業製品用をはじめ多種多様なシール・ラベルを札幌から全国各地へ提供し、「遠くても距離を感じない」顧客対応を実践している。

見える化の実現で業務効率向上

小ロット・短納期、用途に応じた材料提案営業など、顧客からの多種多様なニーズに応えるために、さらなるスピーディーな営業・生産体制の構築や改善のための現状把握が必要となった。顧客からの見積り依頼に対し適正価格を把握した上で利益を確保すること、事務所に戻って調整後に進んでいた納期回答を迅速化することなど、営業・生産現場の実態・原価

の把握によって生産性向上を推進するため、システムをリニューアルすることとした。

システムの開発費用を抑えるため、既存パートナーのクラウドパッケージソフトをベースに、シール・ラベル印刷業に合わせたカスタマイズを行うとともに、工程管理システムを新規に開発した。

リアルタイム工程管理で見える化を実現、業務効率が向上

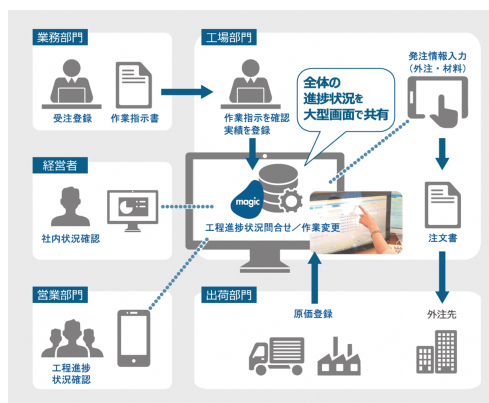
工程管理システムの導入によって、営業部門では原価を把握することで適正な価格設定が実現したほか、営業活動時におけるモバイル活用による時間の削減、工場の生産状況の共有によって納期回答の迅速化が図られた。

生産部門では大型モニターで工程進捗を共有し、受注状況の可視化により生産計画の適正化を実現、繁忙期の受注対応も柔軟に行えるようになった。

また、作業者の実績記録からスキルを把握し適切な作業配分が可能となり、予定とのギャップが縮小し納期遅延も減少、残業時間は20%削減(前年比)した。

個人の作業実績の「見える化」は「見られる化」にもつながった。各自が同僚社員の業績を見ることができるようになり、自身のスキルアップも意識するようになり、改めて自身の仕事を見つめ直すという効果ももたらしている。

今後、見える化された情報を社員の意識向上のほか生産プロセスの改善にもつなげ、さらなる3Cの追及に生かしていく計画である。



(株)サンクレエ「Piece Works」カスタマイズ システム概要図

ITコーディネータから一言

見える化を実現することで問題点の明確化が可能となり、適切な対処が行われるという事例です。見える化の実施においては、「監視されている」と従業員が思わないよう、「会社を良くするため」「個々人の作業の無駄を省く(楽にする)ため」であることをしっかりと周知して運用することがポイントになります(石塚)。